



## 《これからの予定?》

- 5月22日(土) 北陸三県大会 福井  
開催できるか未定
- 6月中下旬 金沢龍馬会総会 詳細未定
- 8月21日(土) 近畿北陸ブロック大会和歌山
- 10月30日(土) 龍馬 World in 高知

## 【龍馬ファンへの道 及び 金沢龍馬会の活動の歴史】

### “坂本龍馬との出会い” ①



金沢龍馬会  
副会長 山田友一  
私が坂本龍馬と出会ったのは、平成9年(1997年)40歳の頃で、たまたま武田鉄矢の「お〜い竜馬」というコミック本を読んだことです。

それまで歴史のしるしにも興味はなかったのですが、なぜかこのコミックを読んでポロポロと涙が流れる部分は何カ所もあり、この人はなんちゅう人なんだろ、人をそれだけまで引きつける魅力は何だろうと思ひ、それから龍馬について書かれた小説や史実本、研究書、史料等を読みあさり、龍馬の魅力にどっぷりとはまり込んで龍馬ファンとなってしまいました。

そして、高知や京都、東京、長崎などゆかりの地巡りを楽しみ、特に京都霊山にある龍馬、中岡慎太郎、藤吉のお墓には年2回8月(お盆の頃)と11月(命日の頃)の2回はお参りに行っていました。今では仕事の関係で数年に一度になってしまいました。

龍馬ファンになって数年後には、全国に龍馬会があることを知り、勝手に「石川龍馬会」と銘打って名刺を作り活動していたのです。

活動と言っても一人で旅行に行ったり、龍馬に関する本やグッズなどを買ひあさったりするぐらいですが。



京都霊山の坂本龍馬、中岡慎太郎、藤吉墓地

### “金沢龍馬会への入会” ②

金沢龍馬会ができることを知ったのは、平成15年10月14日のネットニュースで「富山、石川両県に龍馬会 高知市派遣職員ら懸け橋」とありました。

石川龍馬会を名乗ってはいたものの、特に活動していたわけではないので、龍馬ファンが集まる金沢龍馬会ができることを願ったりと思ひ、ニュースにあった富山龍馬会の世話人で高知から富山に都市間交流職員として赴任していた植田耕太郎氏と早速連絡を取りました。そこで金沢龍馬会の武内会長や福野事務局長の連絡先をお聞きして連絡したところ、快く入会を承諾して頂き金沢龍馬会に参加することになりました。

### “金沢龍馬会の発足” ③

金沢龍馬会は、当時会長であった高知県出身の武内紘一氏と当時の事務局長であった福野勝彦氏が中心となって、会員総数20数名で発足し、富山龍馬会とともに全国龍馬社中の橋本会長や牧田前越前龍馬会会長のご臨席を賜り、平成15年(2003年)10月13日に富山市内のホテルで設立総会を行い、全国96番目(石川県)、97番目(富山県)の龍馬会として誕生しました。

設立に至る詳細な経緯については知りませんが、当時の高知新聞ウェブ版によると、「金沢では龍馬ファンは少なくなかった。早くから独自に連絡網を整え金沢龍馬会の設立を目前に控えていた。」と報道されたので、私としては、高知出身の武内会長や福野事務局長が声かけて龍馬ファンを集めたものだと思います。

《続く》

## まるわかり「龍馬と志士たち」(8)

### 志士たちが活躍した長崎とは

#### ～薩摩藩～

今号は具体的人物を主題にせず長崎に於ける薩摩藩を書いてみたい。伝聞もあるので念のため。

薩摩藩は九州の雄であり、戦国時代末期にはもう少しで九州全土を支配するところであった。

それを秀吉がいわゆる九州征伐で出張てきため恭順した。関ヶ原の戦いでは西軍に位置した。西軍の敗北が明確になったので、撤退したが、後方に行くのではなく、家康の本陣がある前方に突撃することにより撤退した。敵は度肝を抜かれ多くの敵は何もせず眺めていたという。戦後、徳川陣営は島津本体を鹿児島に打つべしとの主戦論が多かったが、あまりに果敢であり影響力が大きいので、家康は薩摩(島津家)の領土を安堵し幕末まで存続した。

加賀藩に次いで表面73万石を称した。外様大名であるにも関わらず、幕末の第一次長州征伐までは幕府に肩入れし、島津斉彬は篤姫を将軍の御台所とし、京都では松平容保に協力し長州と対峙した。

江戸・京都・伏見・大阪・長崎に於ける薩摩藩各屋敷の規模は大きく、江戸の高輪、京都(現同志社大学)などである。

長崎では現在の中華街、つまり江戸時代には中国から輸入される商品の倉庫街であった。そのすぐ近くに薩摩藩蔵屋敷があった。薩摩はそこで何をしていたか。長崎は幕府の直轄地であり、貿易の管理、抜荷（密貿易）取り締まり、異教徒取り締まり等を行っていたため、西国各藩の大家が間役（ききやく）と称し、屋敷を構えていた。

当初薩摩藩は他藩と同じ活動を行っていたと思われるが、薩摩藩と他藩は違う側面がある。つまり薩摩はその南方に多くの島嶼と琉球に接している。そして琉球を通じ間接的に中国と取り引きを行っていた。多くの中国産物が流入してくる。薩摩藩領内だけの市場では限界があり、これを日本各地に捌く（さばく）必要がある。たまたま長崎では、唐人が中国貿易を行っており、多くの中国産物が流入してくる。

長崎港の山を越えた場所に茂木という港町がある。そこを輸送拠点とし、薩摩との間に航路を開設した。通説によると薩摩藩は琉球経由の中国産物を茂木港中継として、海送・陸送で長崎の薩摩屋敷に運び込み、となりの倉庫街にある中国産品に紛れ込ませ日本国中に流通させていたというものである。

長崎犯科帳では小者の抜け荷犯が捕まり、死罪や遠島を申しつけられていたが、大者の抜け荷犯である薩摩藩は、常に噂だけで、捕まることはなかった。（ちなみに長崎領内の掟は江戸と同じものが適用され、お裁きはお奉行様の名前で下されるが、遠島以上の刑罰は、必ず江戸にお伺いを立てる必要があった）

しかしながら 10代藩主斉興の時、薩摩藩の財政が極端に悪いことが判明し、それを憂いた家老調所広郷は琉球貿易や島嶼部の砂糖からの収入を増やし、藩財政を立て直した。江戸にいた若様である島津斉彬（なりあきら）は大老の阿部正弘にその密貿易を密告した結果、調所広郷は不審死、藩主斉興は隠居、次の藩主は斉彬となった。幕府は薩摩藩の抜け荷の仕組みを知っていて知らぬふりをしていただけかもしれない。

斉彬はいわゆる蘭癖大名（蘭学に傾注したり、オランダ式や西洋式習俗を憧憬・模倣する大名<wikipediaより>）でその代表格であり、藩財政を破綻に追いやった曾祖父の8代藩主島津重豪を見習い西洋の模倣・研究に没頭した。自ら集成館を建設し鉄製大砲のための反射炉やガラス製造、紡績などのパイロットプラントを作った。幕末には藩の産業化に貢献し維新以降はその技術が日本各地に伝播した。

それはさておき、読者もご存知のように慶応2年（1866年）の薩長同盟前後、長崎では薩摩藩が暗躍することとなる。先ず亀山社中のスポンサーは薩摩藩である。彼ら隊士達に毎月約3両の給金を支払った。つまり藩としてできない活動を亀山社中にやらせたものである。長崎には長州の屋敷があったが、賊藩とみなされ屋敷を閉鎖された。長州からそれらを買付けに来た伊藤博文や井上馨を薩摩藩邸にかくまった。それで外国の武器や軍艦を薩摩藩名義で買付け、亀山社中が長州に渡した。外様大名にして、途中まで幕府の懐深く入り込み、京都では松平容保に協力し長州と対峙し、京都から追い払った。その後、その長州と秘

密同盟を結び、維新にこぎつけた。密貿易をやりたい放題、薩摩藩は実に煮ても焼いても食えない藩である。



長崎中華街(江戸時代は中国貨物の倉庫街だった)



薩摩藩蔵屋敷跡(右奥が中華街)

参考資料：長崎新聞 薩摩藩蔵屋敷跡写真：楽天トラベル HP

「続く」(記：吉田信夫)

#### ●年会費納入のお願い

**2021年4月から来年3月迄の年会費：¥3,000円**

例会ご出席の折か次の口座まで送金下さい。

郵便局 口座No. 00780-5-38627

口座名義 金沢龍馬会

振込手数料は龍馬会負担。3千円のみです。

#### 【編集後記】

皆さま、心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も第27号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

\*\*\*\*\* 事務局\*\*\*\*\*

#### 金沢龍馬会

会 長：蛭子政喜

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

[jitianxinfu@hotmail.com](mailto:jitianxinfu@hotmail.com)

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

[n-toshio@muji.biglobe.ne.jp](mailto:n-toshio@muji.biglobe.ne.jp)

#### 金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

#### 金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>



# 北陸三県龍馬会

## 各位 越前龍馬会

2021年3月吉日  
事務局 佐々木 健治

拝啓

早春の候、北陸三県龍馬会の皆様におかれましては、ますますご健勝の事と存じます。

さて、昨年、新型コロナの影響により開催を延期しておりました越前龍馬会設立20周年記念事業を本年5月22日（土）に下記の通り、開催することとなりました。

ただし、まだ新型コロナ感染の恐れがある為、懇親会は無く記念式典のみ開催する事としました。今回の開催地は福井県の越前市です。

この地は、福井出身の海援隊士の一人である「関義臣の生誕地」であり、昨年、越前龍馬会で、関義臣の解説板を設置しましたので是非、皆さま方にその解説板を紹介したいと思います。

また、記念式典では、関義臣の研究の第一人者であります「真柄甚松先生」に関義臣に関する講演をしていただきますので是非とも参加頂きますようお願い致します。

また、越前龍馬会20周年記念事業は、北陸三県龍馬会交流会を兼ねて開催いたします。ご理解頂きますようお願いいたします。

参加可否は、各会でまとめて頂き、3月26日（金）までに事務局までメール等で、ご連絡頂きますようお願いいたします。 敬具

### 北陸三県龍馬会

日 時 2021年5月22日（土）

受付開始 13:30スタート

式 開始 14:00

式 終了 16:00

場所：ホテルクラウンヒルズ武生

（JR武生駅前）3F 吉祥の間

越前市府中 1-2-3

TEL 0778-23-8100

講演会：演題「龍馬の黒子 関 義臣」

講 師：真柄 甚松氏

（元 福井県教育研究所所長）

参加費：無料

・マスクの着用をお願いいたします。

※連絡先 越前龍馬会事務局 〒910-0017  
福井市文京 5-13-25

事務局 佐々木 TEL 090-8703-9752

E-mail [fenwick0075@gmail.com](mailto:fenwick0075@gmail.com)

以上